

浦・赤住・江野・末吉・大念寺・大念寺新・長澤・大島・福野・松戸・町・安部屋・田原・大笹・米町・小室・直海・釋迦堂・宿女・松木の三十ヶ村を合んで居た。

ホリムネモリ 堀宗備 備中人道と稱した。初め織田信長の臣であつたが、元和二年來りて前田利常に仕へた。子宗右衛門は之より前既に利常に仕へてゐた。

ホリモザエモン 堀茂左衛門 父勘左衛門はもと堀忠俊の臣であつた。茂左衛門、寛永十四年前田利常に仕へて二百石を受け、慶安二年歿。子孫密に世襲する。

ホリヤソエモン 堀彌三右衛門 平丞照種の子。祿三百石、御馬廻組に班したが、享保十四年十二月廿七日三田村監物と争論して遠慮を命ぜられ、元文元年知行を召放されて俸十人扶持を賜うた。時に年五十四。但し悴藤馬、同年新知二百石を受けて家系を續いだ。

ホリユウ 甫立 ↓シマバヤシホリユウ 島林甫立。

ホリユウシヤ 暮柳舎 金澤に於ける蕉風俳人の庵號。初め綿屋希因之を稱し、後川・後川門の車大之を繼ぎ、四代は明らかでないが或は北室かともいふ。次いで車大門の宇牧・年風門の立介が繼席した。

ホリユキタダ 堀行忠 通稱藤九郎。軍學天文章圖説の著者。その傳を詳かにせぬ。加

陽事跡事録に、亡父堀行忠神道の傳は伊勢外宮之社司出口信濃守宣佳之傳也といひ、湯淺福庸の語に、初心抄一冊は堀行忠の著である。行忠兵學に詳しく、矢部七左衛門は寛保二年の出生であつたが、壯年の頃就いて武道の心得を尋問したとある。

ホリヨシカツ 堀善勝 又義勝に作る。通稱作兵衛。前田利常の時御歩となり、百石を受け、御横目人持組永原大學に隸した。嘗て城中に能樂のあつた時、大學は輿に乗じて登城し、小々將某之に次いだ、その小々將の若黨が、大學の年若きを蔑視し、之を追越して先行せしめんとした。善勝乃ち憤り、若黨の面を撲つて懲らしたので、若黨は翌日善勝の家に至り害を加へんとしたが、衆に妨げられて果さなかつた。後利常之を聞き、若黨の非行を憎んで死を賜うた爲、善勝は大に感激し、萬治元年利常の薨じた時自宅に於いて殉死した。子孫相繼いだ、五代逸角逐電して捕へられ、寶曆九年三月獄死して斷絶した。

ホリヨハチロウ 堀與八郎 初め佐々成政に仕へ、末森戦の先手を勤めたことがある。後前田利家に臣事し、五百石を領し、關東陣の時八王子攻撃に討死した。その子は大坂陣に討死した久右衛門である。子孫世々藩に仕へる。

ホルトマン 明治八年八月石川縣病院は創設せられ、同月關西ホルトマンを迎へて院長たらしめた。後在任三年餘にして同十二年歸國した。

ホロアシガル 母衣足輕 混見摘寫に、『當家(加賀藩)にて母衣衆は、横目白、小々將赤、使番黄赤段々。已前は足輕の母衣を進め申す

よし。是は常の母衣より大きなり。いきほひの爲なりといふ。今母衣町は右之足輕在之所といひ傳ふ。』とある。こゝに母衣町にそれらの足輕が居たとするのは誤で、博伽雜談には、『母衣足輕といふ者百人在之。知行三千石被下置。今の五十人町その組地なるよし古人の咄也。』とある。

ホロカチ 母衣歩士 岡本慶雲の末森記に、前田利家の末森に後詰した時、半田半兵衛が一番鎧をなして深手を負うた功により、千石を加増し、歩母衣十五人を輿力として附屬せしめられたとある。又元祿十四年の調書に、粟野甚内といふ者が利家時代に母衣歩士で百二十石を賜はつたとあり、博伽雜談に、慶長六年から十年頃まで、御歩母衣衆の頭は今井左太夫・中村彌五左衛門・宮崎藏人で、各組十人宛あり、その左太夫組は知行四十七石から三十七石五斗までと記され、大坂御陣には三十六人二組で頭も二人あり、白魄を掛け、御歩に先行して威を示したとある。次いで萬治三年三月の法令に『御歩者・母衣者・御扶持方取跡目公儀にも不被下候間、向後御家中も被仰付間敷候。』とあつて、一代奉公となり、この頃から後はその名稱が見えぬ。母衣歩の住地は後の母衣町である。

ホロポロバナ ぼろぼろ鼻 鹿島郡能登島なる田尻部落から北方の岬。

ホロマチ 母衣町 金澤の町名。淺野川橋下一文橋(今中の橋)邊から下流左岸の町名である。藩初頃、母衣衆と稱する歩士があつて、その邸地がこゝにあつたといふ。

ホンインジ 本因寺 金澤野田寺町に在つて、興富山と號し、日蓮宗に屬する。元和元年京都本能寺日承の弟子眞淨院日得の創立に係る。

ホンエンジ 本延寺 鹿島郡小島に在つて、日蓮宗に屬する。文明元年日賢の開山である。

ホンガクイン 本覺院 七日市藩主第七代前田利尙の法號。詳しくは本覺院廓然女性大居士。

ホンガクジ 本覺寺 金澤六斗林に在つて、日蓮宗に屬し、本門山と號する。慶長十九年本院日照を開山とし、三輪志摩長好の立てた所といひ、元和二年日照が上落して頂戴した繪旨を存する。一説に當寺は長好が妙滿寺日經の爲に建立したともいふ。然らば日經が幕府の罪を獲て潛匿中であつたから、表面にその名を現さなかつたものであるかも知れぬ。

ホンガクジ 本覺寺 能美郡小松寺町に在つて、眞宗東派に屬する。初め越前和野郷西方村に在つたから、和野の本覺寺と稱せられる。永正三年八月加賀の本願寺門徒越前の朝倉氏を攻めた時、本覺寺の蓮光は共に活動したが、敗北の後加賀に留り、天文の頃には延曆寺領藤塚の内河原の地を掠奪するほどの勢力があつた。慶長七年に至つて寺を石川郡來同に建て、九年今の地に移つた。

ホンガクジ 本覺寺 河北郡種に在つて、眞宗東派に屬する。もと道場であつたが、明治十二年七月寺號の公稱を許された。

ホンガクジ 本覺寺 鳳至郡栗藏に在つて、眞宗東派に屬する。この地、もと川西の飛地であつた。

ホンガクボウ 本覺坊 羽咋郡浦谷に在り、日蓮宗妙成寺の塔頭で、天正六年本覺院日慈